

平成 26 年度京田辺市男女共同参画に関する市民意識調査報告（概要）

市は、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、第 2 次京田辺市男女共同参画計画（計画期間：平成 23 年度～平成 32 年度）の中間見直しのための資料とともに、施策の検討にも活用するため、市民意識調査を実施しました。

1 調査の概要

- (1) 調査対象 = 無作為抽出した市内在住の 20 歳以上の男女各 1,500 人
- (2) 調査期間 = 平成 27 年 1 月 21 日から平成 27 年 2 月 3 日まで
- (3) 調査項目 = 家庭生活、地域活動、男女共同参画施策などについて
- (4) 調査方法 = 郵送による配付・回収
- (5) 有効回収数 = 1,582 通
- (6) 有効回収率 = 52.7%

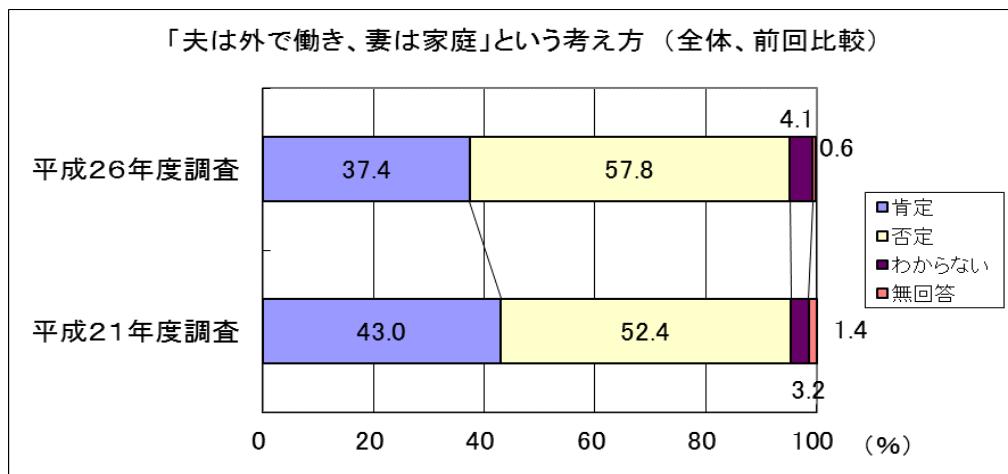
2 調査結果の概要

(1) 家庭生活について

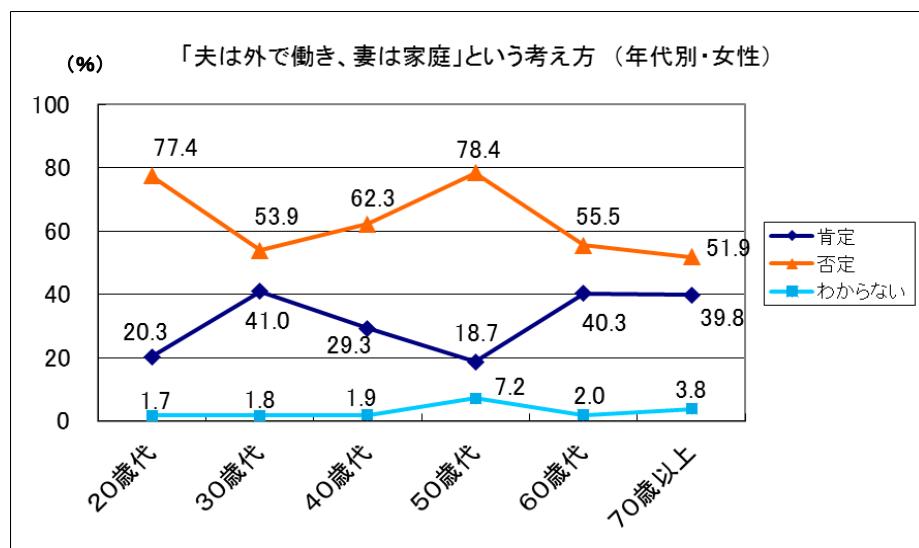
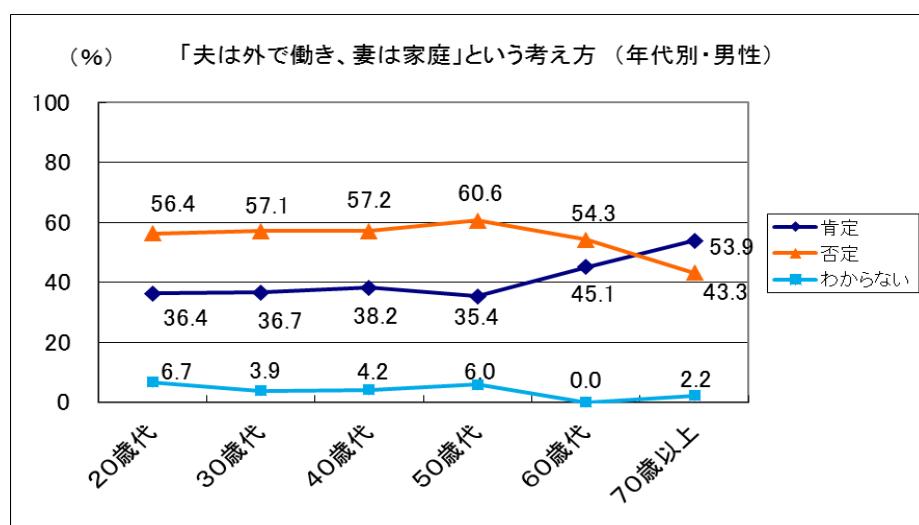
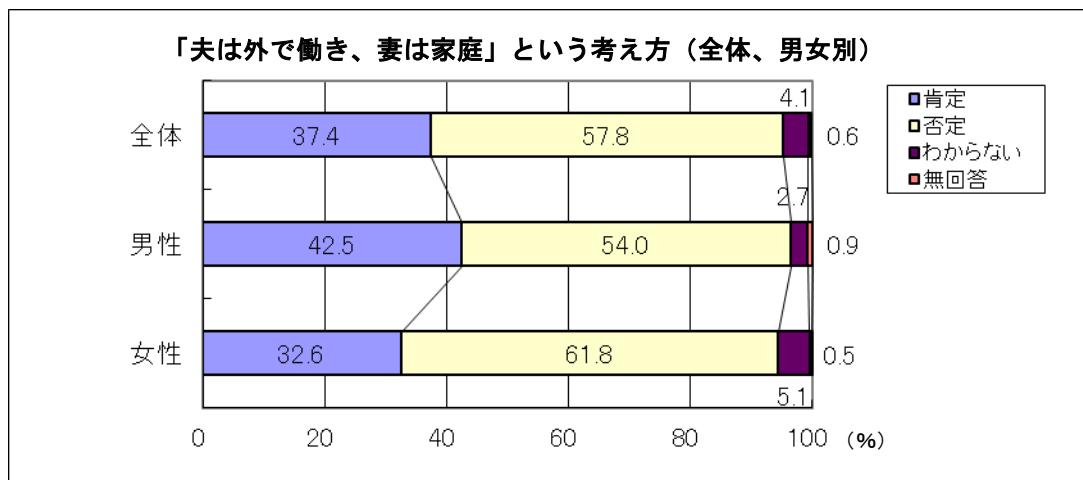
『夫は外で働き、妻は家庭を守るのがよい』という考え方については、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた否定する人の割合が 57.8%、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた肯定する人の割合が 37.4% となっており、否定する人の割合が肯定する人の割合を 20.4 ポイント上回っています。

また、前回調査（平成 21 年度『京田辺市男女共同参画に関する市民意識調査』）との比較では、肯定する人の割合が 5.6 ポイント減少しています。

今後も継続して性別にとらわれない意識への変化を促す取り組みが求められています。



性別でみると、女性に比べ男性で「夫は働き、妻は家庭を守るのがよい」という考え方を肯定する人の割合が高く、男性の60歳以上では4割を超えており、男性や年齢の高い世代で固定的な役割分担意識が強いことがうかがえます。



(2) 仕事について

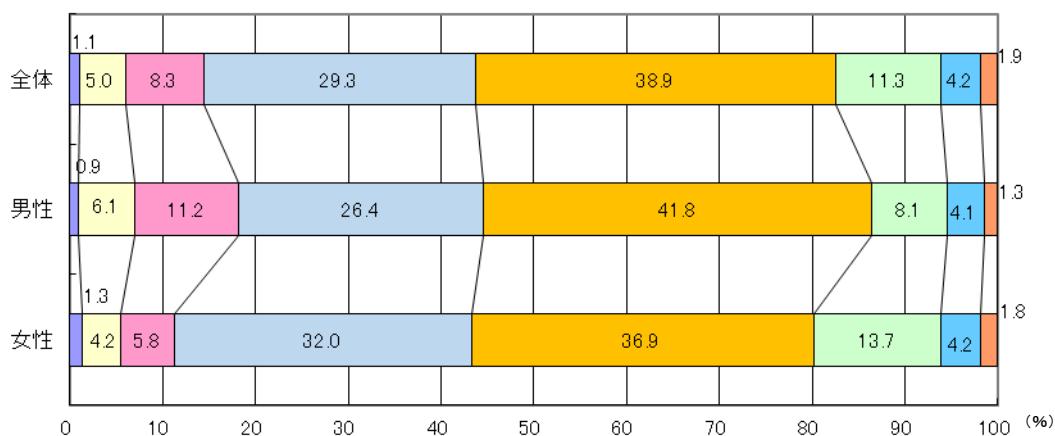
女性が職業をもつことについては、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が全体の約4割を占め、男性では4割を超えてています。

また、全国世論調査(平成24年度内閣府『男女共同参画社会に関する世論調査』)と比較すると、京田辺市は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が、8.1ポイント高くなっています。

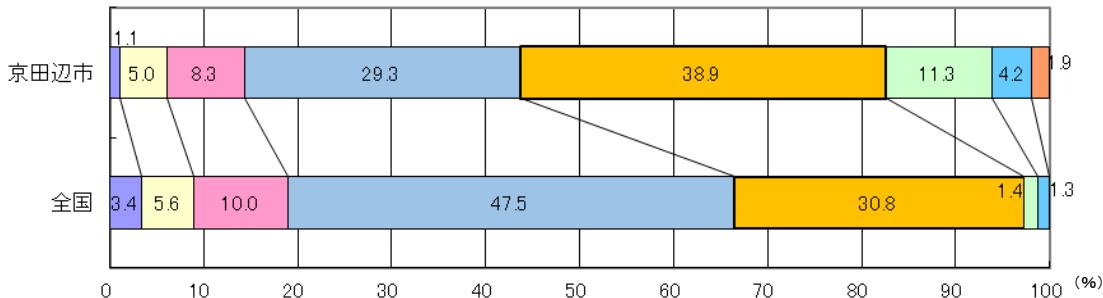
子育て支援を引き続き継続していくことが必要であるとともに、子育て後の職場復帰などの支援についても必要とされていることがうかがえます。

- 女性は職業をもたない方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができてもずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

女性が職業をもつことについて（全体、男女別）



女性が職業をもつことについて（全国世論調査との比較）

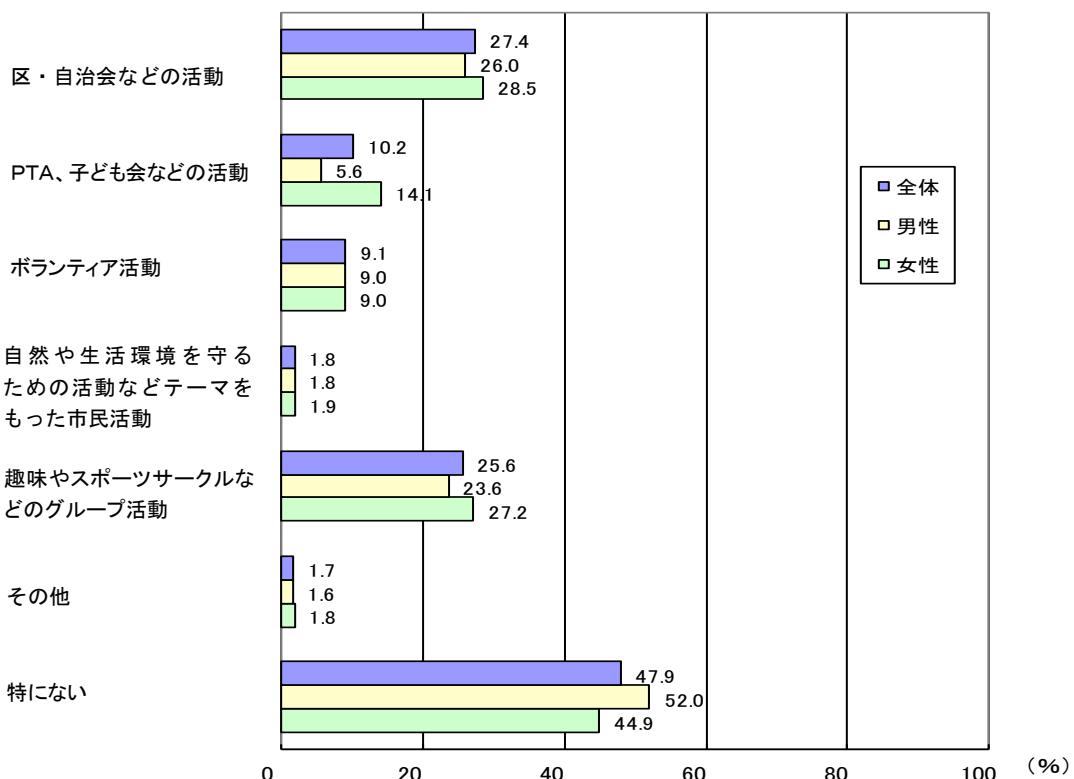


(3) 地域活動・社会活動について

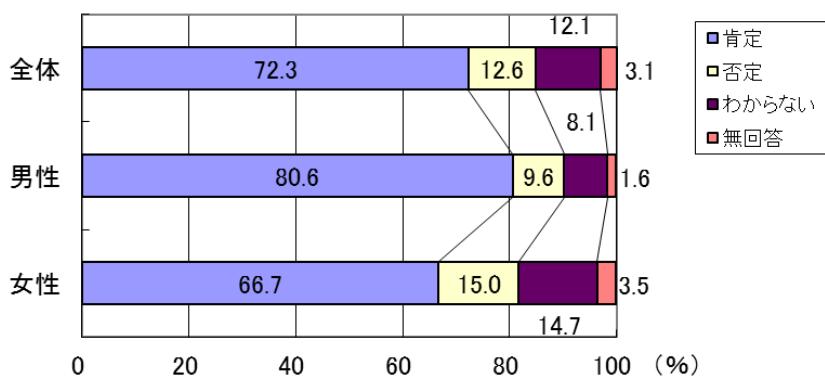
現在参加している地域活動・社会活動については、「区・自治会などの活動」、「趣味やスポーツサークルなどのグループ活動」の割合が2割を超えていましたが、「特ない」と回答した人は全体の約5割を占めています。

また、地域活動において「女性もリーダーや重要な意思決定に係わる役員になって、方針を決める場に積極的に参加していくべきだ」という意見については、肯定する人の割合が7割を超え、肯定する人が否定する人を大きく上回っています。

現在参加している地域活動・社会活動



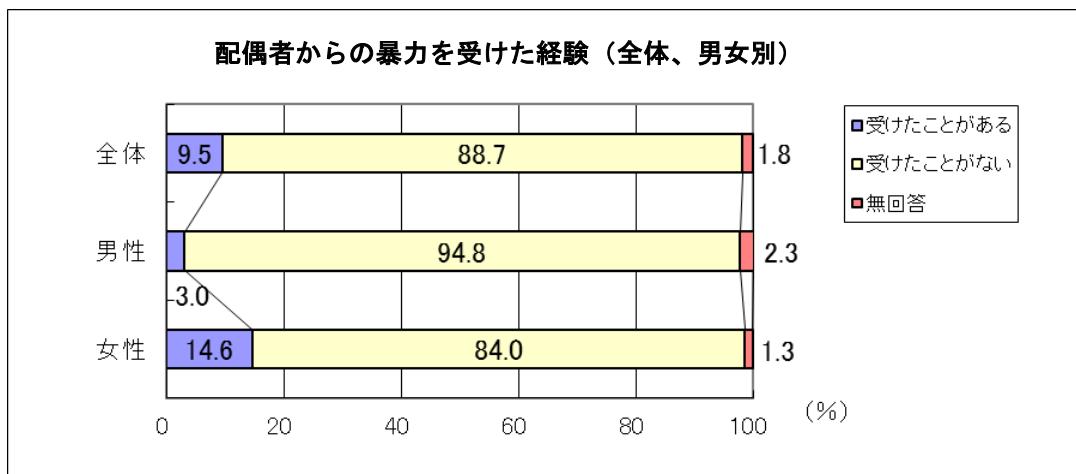
「女性もリーダーや重要な意思決定に係わる役員になって、方針を決める場に積極的に参加していくべきだ」という意見（全体、男女別）



(4) 配偶者間の暴力について

配偶者からの暴力を受けたことについては、「受けたことがある」の割合が1割未満、「受けたことがない」の割合が約9割となっているものの、女性では「受けたことがある」の割合が1割を超えてます。

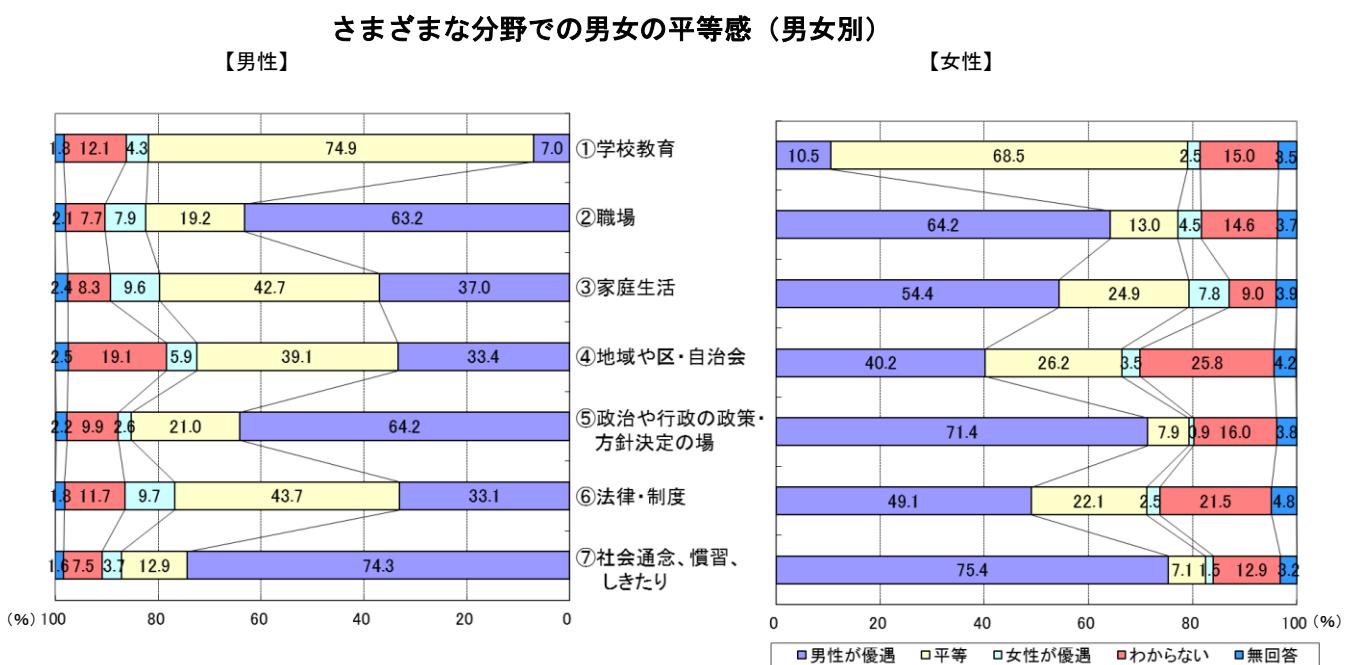
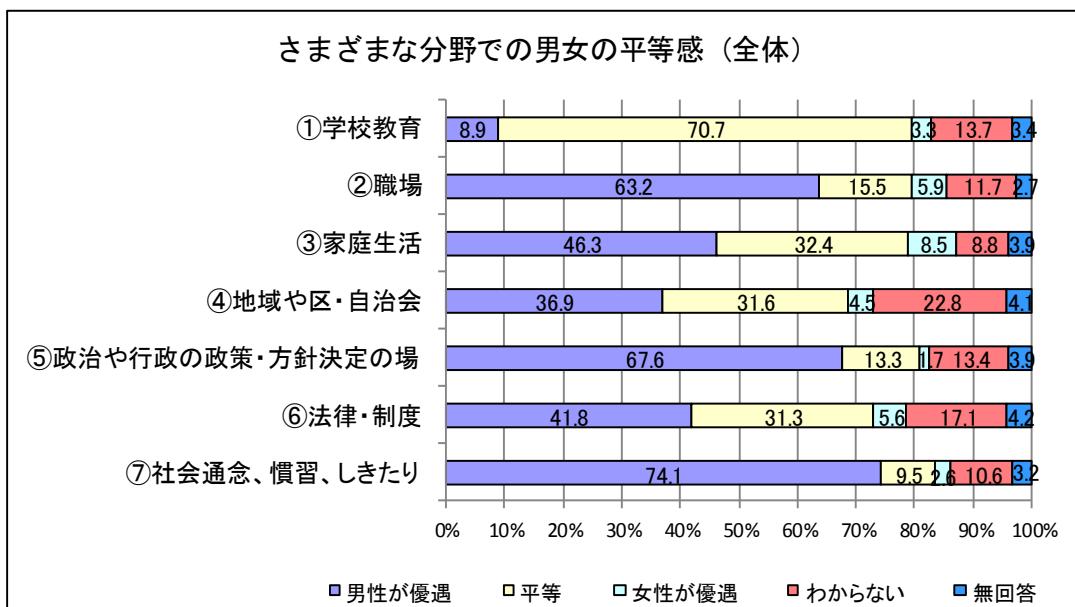
今後も配偶者間の暴力などについての理解や認識を深める啓発活動を行っていくことが必要であるとともに、市民が安全・安心に相談でき、適切に被害者を保護・支援できる体制の充実が必要です。



(5) さまざまな分野における男女の平等感について

男女の平等感を7つの分野(①「学校教育」、②「職場」、③「家庭生活」、④「地域や区・自治会」、⑤「政治や行政の政策・方針決定の場」、⑥「法律・制度」、⑦「社会通念、慣習、しきたり」)で質問したところ、①「学校教育」においては男女の平等感が高いものの、その他の分野では男女の不平等感が高く、特に②「職場」、⑤「政治や行政の政策・方針決定の場」、⑦「社会通念、慣習、しきたり」では、男性が優遇されていると感じている人が6割を上回っています。

なお、いずれの分野でも、「平等」と感じている人の割合は女性より男性の方が高い結果となり、男女で受け止め方に違いがみられました。



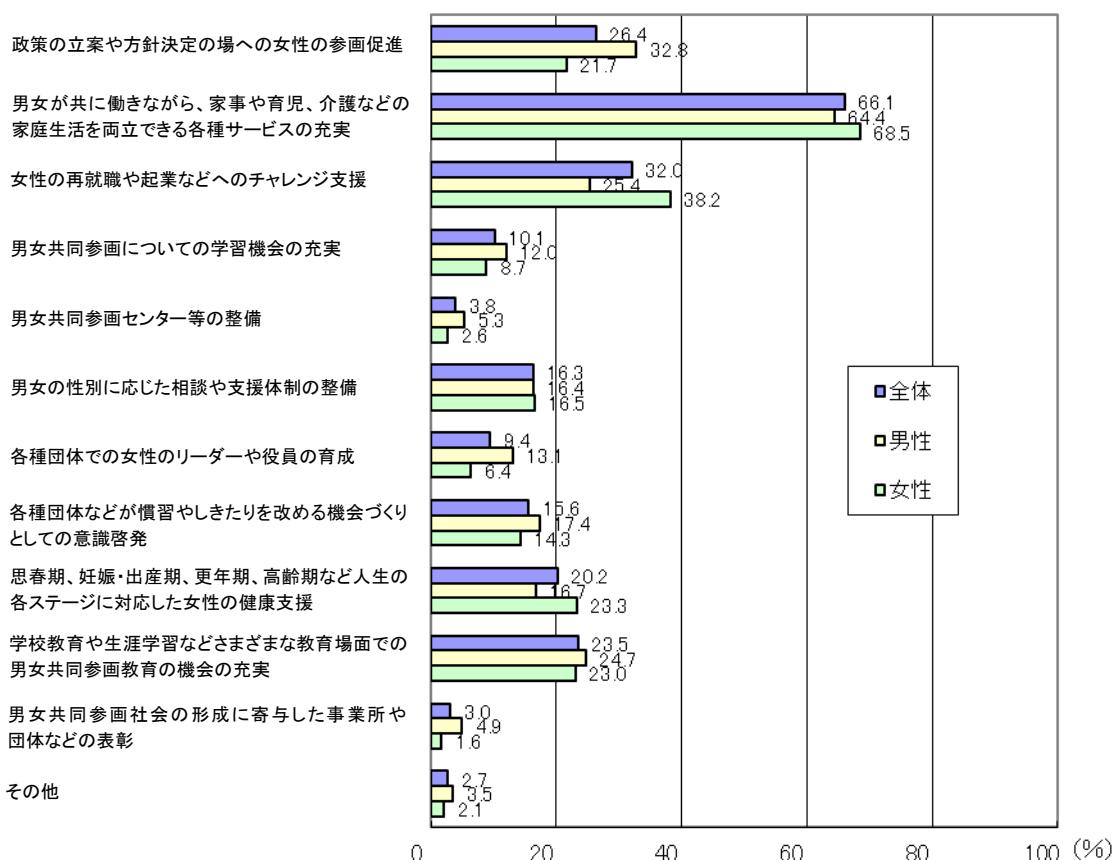
(6) 男女共同参画社会を形成していくために、市が優先的に進めるべきこと

男女共同参画社会を形成していくために、市が優先的に進めるべきだと思うことについて、「男女が共に働きながら、家事や育児、介護などの家庭生活を両立できる各種サービスの充実」の割合が約7割と最も高く、次いで「女性の再就職や起業などへのチャレンジ支援」、「政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進」と続いています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「女性の再就職や起業などへの支援」、「思春期、妊娠・出産期、更年期、高齢期など人生の各ステージに対応した女性の健康支援」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「政策の立案や方針決定の場への女性の参画促進」、「各種団体での女性のリーダーや役員の育成」の割合が高くなっています。

今後は男女共同参画に関する事項について、年代や性別ごとのニーズに応じた施策を推進していくことが必要です。

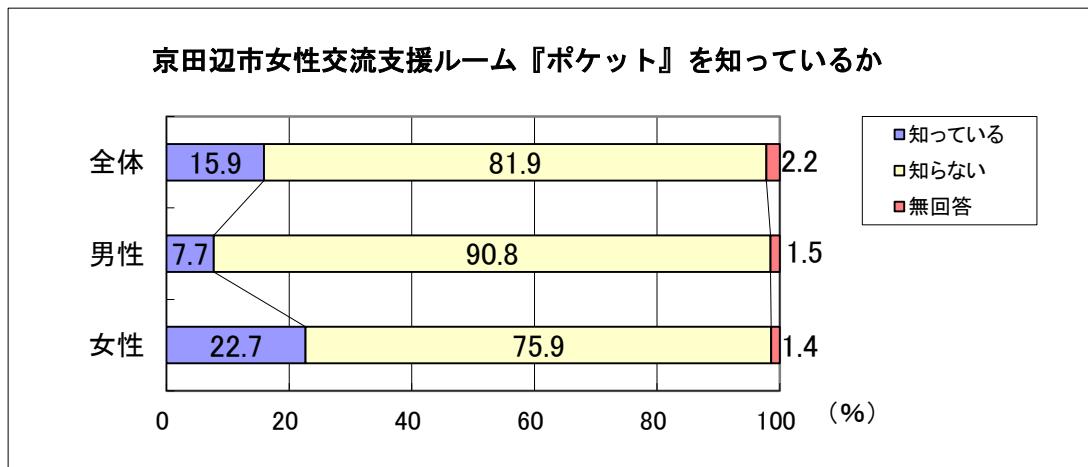
市が優先的に進めるべき施策



(7) 京田辺市女性交流支援ルーム『ポケット』について

京田辺市女性交流支援ルーム『ポケット』を「知っている」人の割合は約2割となっており、そのうち、「利用したことがある」人の割合は約1割となっています。

今後も、女性交流支援ルームの事業の充実や周知啓発を一層推進していく必要があります。

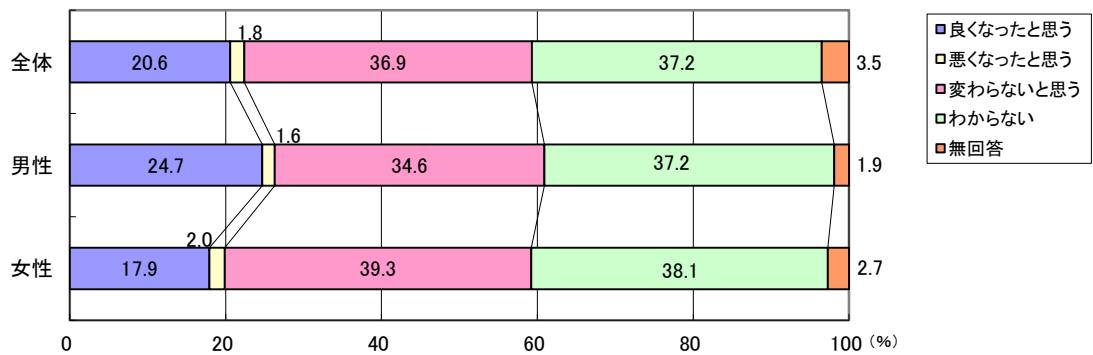


(8) 男女共同参画社会における環境等の変化について

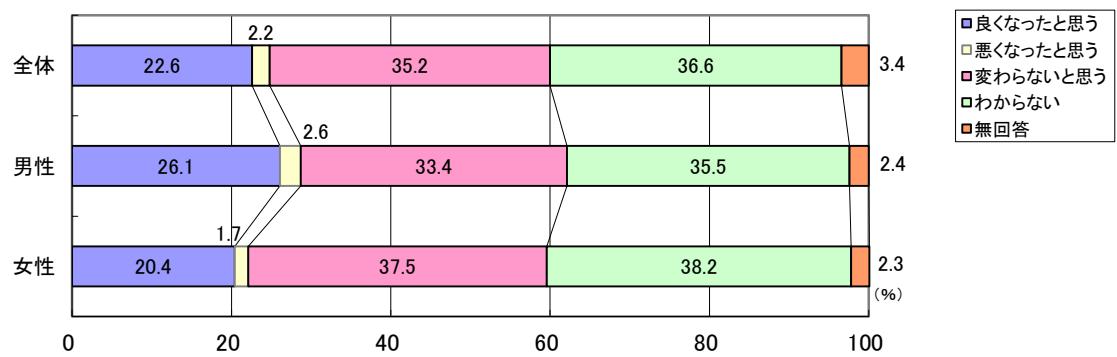
4年前と比べた男女共同参画社会における環境の変化についての質問では、①「男女が対等なパートナーとして活躍でき、多様な能力や個性が十分活かされる社会になる。」、②「男女が家庭生活に参画し、共に仕事やその他の生活とのバランスのとれたライフスタイルを確立できるよう、多様な生き方・家庭のあり方を支える環境になる。」、③「男女が等しく個人として尊重され、互いの性を理解し、生涯にわたる健康づくりなど、安心して暮らせる環境になる。」の3項目とともに、「良くなったと思う」と「どちらかといえば良くなったと思う」を合わせた割合が2割を超えていました。

しかし、「変わらないと思う」「わからない」と答えた人がそれぞれ約4割と高く、今回の調査結果から、全体として男女共同参画への市民意識の向上は見られるものの、周囲の環境が男女共同参画社会に向けて変化してきたという実感には至っていない人が多いことがうかがえます。

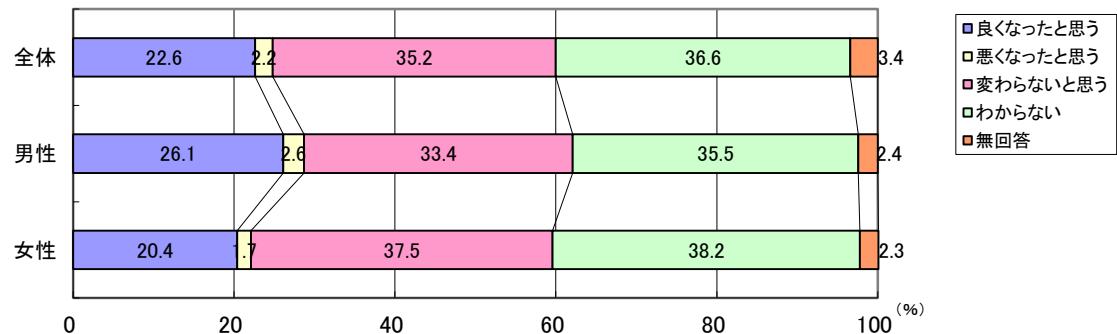
- ① 男女が対等なパートナーとして活躍でき、多様な能力や個性が十分活かされる社会になる。



- ② 男女が家庭生活に参画し、共に仕事やその他の生活とのバランスのとれたライフスタイルを確立できるよう、多様な生き方・家庭のあり方を支える環境になる。



- ③ 男女が等しく個人として尊重され、互いの性を理解し、生涯にわたる健康づくりなど、安心して暮らせる環境になる。



(9) 自由記述

市の男女共同参画に関する意見・感想などの自由記述では、「一律に男女同じといふのではなく、男女それぞれの適性・能力を活かし尊重し合えるとよい。」と「男女共同参画についてあまり知られていない。もっと関心を持ってもらえるよう広報・啓発すべき。」が各34件と最も多く、次いで「男女間・世代間などで意識に差がみられる。それぞれの意識改革が必要。」と続いています。

また、就労環境の改善や子育て支援・介護支援の充実など、男女共同参画社会の実現を後押しするさまざまな制度や社会環境が整うことを望む声も多くみられました。

意見内容	件数
■男女共同参画について	
一律に男女同じといふのではなく、男女それぞれの適性・能力を活かし尊重し合えるとよい。	34
男女共同参画についてあまり知られていない。もっと関心を持ってもらえるよう広報・啓発すべき。	34
男女間・世代間などで意識に差がみられる。それぞれの意識改革が必要。	27
男女共同参画社会をめざし施策を進めてほしい。	16
男女が平等に市政に参画することが必要。市が積極的に推進すべき。	14
女性交流支援ルームをもっとPRし、充実させてほしい。	10
行政だけで進めるのではなく、企業等とも協力し、市民の意見も取り入れて進めてほしい。	9
まずは、それぞれの家庭でパートナーが協力し合うことが大切。両親が良いモデルになるべき。	7
男女共同参画は進んでいる。現状に不満を感じていない。	7
学校などの場で、子どもの頃から教育することが重要。	5
■関連施策について	
就労支援及び働く人のための支援制度の充実、職場環境の改善を望む。	27
保育所（保育サービス）・学童保育・子育て支援制度の充実を望む。	19
介護施設（介護サービス）の充実や、介護者への支援を望む。	11
■アンケートについて	
アンケートの内容・調査方法等についての意見	16
このアンケートをきっかけに、男女共同参画に関心を持った。今後の施策に注目したい。	8
■行政全般について	
住みやすく魅力ある京田辺市になってほしい。	16
行政への意見・要望等	6
■その他	13
件数合計	279

3 第2次京田辺市男女共同参画計画における目標達成状況

基本目標1 男女共同参画社会の基盤をつくる

【目標】

項目	平成27年度目標	平成21年度の状況	今回調査結果
「夫は仕事、妻は家庭」という役割分担意識にとらわれない人の割合	60%	52.4%	57.8%

基本目標2 家庭も仕事も大切にできる環境をつくる

【目標】

項目	平成27年度目標	平成21年度の状況	今回調査結果
家事の役割分担における「現状」と「希望」の差※1	20%	28.0%	32.5%
参考	家事の役割分担における「現状」	13.4%	13.9%
	家事の役割分担における「希望」	41.4%	46.4%
「子どもができても職業を持ってよい」という考え方を受け入れる人の割合※2	80%	66.7%	68.2%

基本目標3 一人ひとりが健やかに暮らせる環境をつくる

【目標】

項目	平成27年度目標	平成21年度の状況	今回調査結果
互いの生き方を尊重できる人の割合※3	70%	63.9%	69.7%
配偶者間の暴力被害者(女性)がどこ(だれ)かに相談した割合	50%	37.3%	39.1%

第2次京田辺市男女共同参画計画の基本目標2のうち、家事の役割分担における「現状」と「希望」の差については、平成27年度に20%まで縮小することを目標としていますが、今回調査結果では「現状」と「希望」の差が平成21年度に比べ4.5%拡大しています。

内容を詳しく見ると、平成21年度と比べ「現状」の伸びが0.5%であるのに対し、「希望」は5%伸びており、結果としてその差が拡大しているものです。

また、全体としては、いずれの項目も平成27年度目標にまでは到達していないものの、平成21年度の状況と比べて着実に目標に近づいています。

今回の調査結果から、市民の男女共同参画についての意識や市民を取り巻く男女共同参画社会の状況は、少しずつ高まってきていることがうかがえます。

※1：家事（掃除、食事の片付け・食器洗い、洗濯、日常の買い物）を「夫と妻で同程度」分担している割合と、「夫と妻で同程度」分担を希望している割合の差の平均

※2：「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と思う人の割合の合計

※3：「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくともどちらでもよい」と思う人の割合とします。